

ユニセフ・ネパール事務所

子どもの保護プログラム「児童労働と闘う」



©UNICEF Nepal/Narendra Shresta

第 2 次報告書

Grant Number: SC141024

2017 年 2 月

unicef  | for every child

1. 概要

国内委員会	日本ユニセフ協会
支援者	神奈川県ユニセフ協会
番号	SC141024
支援分野	子どもの保護
プログラム費用 (US\$)	\$ 253,408.43
プログラムでの支出 (US\$)	\$ 33,888.23
ユニセフ本部管理費 8%	\$ 2,711.06
残金(US\$)	\$ 216,809.14
報告期間	2014年1月1日 - 2016年12月31日
ユニセフ本部への報告日	2017年2月
国内委員会への報告日	2017年5月

2. プログラムの目的と期待される成果:

日本ユニセフ協会を通じたご支援は、現在の開発プログラムの行動計画にある、下記の子どもの保護分野に活用されています。

神奈川県ユニセフ協会によるご支援は、ネパールの開発プログラムの子どもの保護分野に寄与しています。

期待される成果1: 2017年までに 国の政策・法案・計画・予算・組織調整・監視(モニタリング)は、子どもや青少年・女性の生存・発展・保護・社会参加の権利を、人道的な場を含むすべての状況において平等を果たすために与えられること。

期待される成果2: 2017年までに、もっとも困難な地域にて、子どもや青少年、女性が人道的な立場を含むすべての状況において生存・発展・保護・社会参加するための質の高いサービスを一貫して与えられること。

期待される成果3: 2017年までに、重点地域において、子ども・青少年・女性・男性そしてすべての人権の義務を負う人たちが社会の変化に参画し、子どもや青少年・女性が人道的な場を含むすべての状況において生存・発展・保護・社会参加の権利を認めるために行動を起こすこと。

特に、支援の目的は児童労働などの子どもの劣悪な生活環境を改善するため、経済的搾取や虐待・保護の怠慢ないし拒否から子どもを守ることです。そのためにユニセフは、8か所の地方自治体¹を支援し、以下の5つに関連する分野に重点をおいた活動をしています。

1. 児童労働に関する情報管理の仕組み(データ収集、分析、普及など)
2. 児童労働の危険にさらされている子どもとその家族への社会復帰サービスの提供
3. 自治体や他の主な関係者の能力強化と制度強化
4. 行動変容のための社会的動員や広報
5. 市町村や関係機関の調整や監視(モニタリング)

3. 主な成果と関連事項

この報告期間、神奈川県ユニセフ協会からの資金は、以下のユニセフ・ネパール事務所が実施する10の自治体における子どもの保護プログラムに充てられました。(2016年に2つの自治体が追加されました。)

ユニセフのサポートによって、ビラトナガル市は2016年5月13日に初の子どもにやさしい自治体を宣言しました。児童婚やホテル業や運送業に従事する児童労働の防止においては特に大きな前進がありました。

2016年、ユニセフは地方開発省(MoFALD)との協議のもと、新たな5つの自治体を選出し、子どもにやさしい地方自治(CFLG)の5つの指標(最悪の形態の児童労働の改善を含む)を達成すべく、支援を行っています。

¹ ユニセフはテライ地域の8つの自治体を支援し、児童労働と子どもの人身売買の削減と対応を実施しています。本プログラムへのご支援は、当該8の自治体の成果や活動に貢献しています。

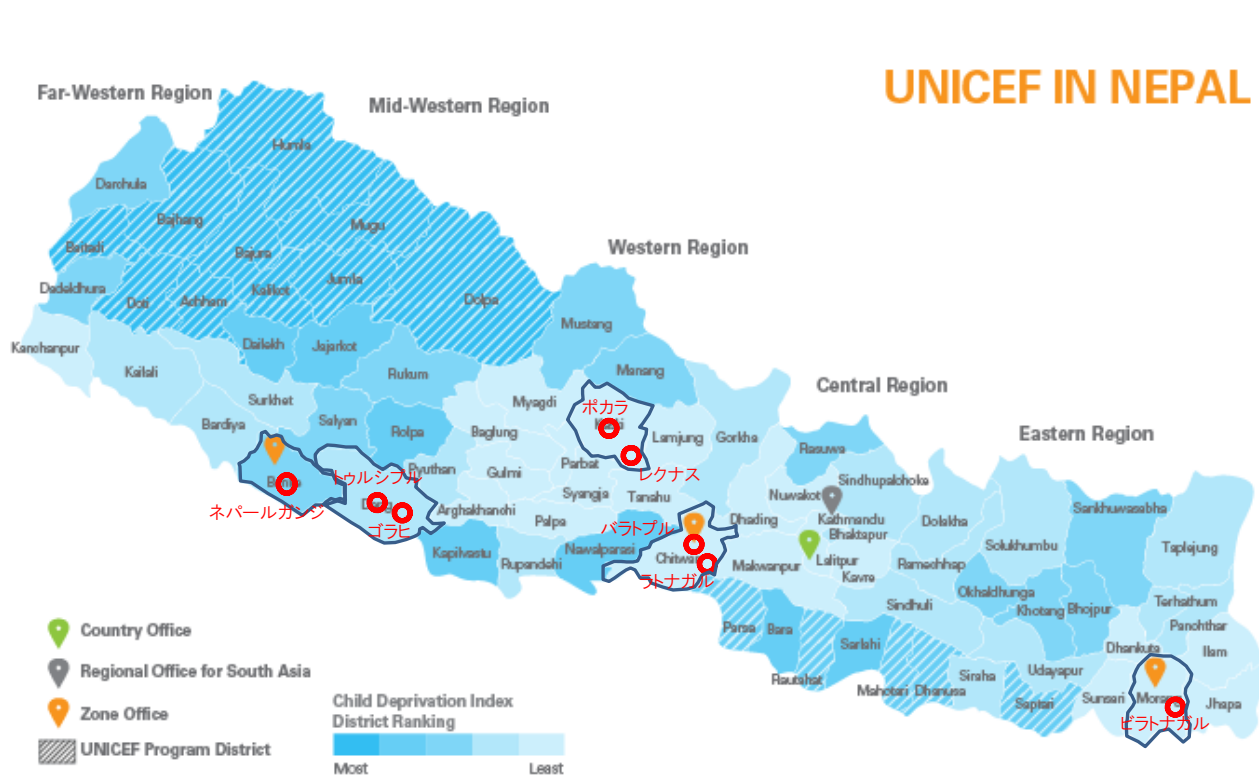
地方開発省(MoFALD)は、国の「年次戦略行動計画2016/17」に児童労働対策を予算化しています。児童労働対策プログラムは現在、地方開発省の地方自治レベルに含まれています。

報告期間、神奈川県ユニセフ協会からのご支援は特に、2県の3つの自治体(バラトプル市、ラトナガル市、ポカラ市)での児童労働対策に活用されました。

◆今回支援対象の自治体

1	カスキ県	ポカラ市
2	チトワン県	バラトプル市
3		ラトナガル市

ユニセフ・ネパール事務所が実施する支援対象の自治体



活動1:子どもの保護と児童労働における情報管理システムの整備

ユニセフの支援を受け、対象の地方自治体は最新のガイドラインに沿って、収集したデータの更新・修正作業、調査フォームや調査方法の確認を継続的に実施しています。

対象の自治体は、児童労働を含む子どもにやさしい地方自治の指標に対する達成状況を確認しました。合計で、1,903人(女子942人、男子961人)の児童労働に従事する子どもが発見され、そのうち1,845人(女子915人、男子930人)にその後の対処計画が設けられました。

さらに、2016年にプログラムを開始したビルガンジ市とラジビラジ市で、子どものプロファイリング化を進め、子どもの保護の指標のベースラインづくりに使用されます。これは子どもにやさしい町づくりを宣言する際の必須事項です。



子どもの保護の問題とその後の対処についての重要性を説くオリエンテーションセミナーの様子(ダーン郡)

活動2:児童労働の危険にさらされている子どもとその家族への社会復帰サービスの提供

支援対象の10市で、最も過酷な形態の労働を強いられている合計760人の子どもたちが社会に復帰しました。社会福祉士のフォローアップを受け、彼らへのケアは終了となります。解放された子どもたちは個々にニーズに合った様々なサービス(心理カウンセリング、教育支援、両親と雇用主の仲介など)を受けました。

この中の148人の働く子どもたち(女子115人、男子33人)が雇用主団体との連携で見習いとして技術訓練を受けました。また、208人の子どもたち(女子108人、男子100人)の家族に対して所得創出の支援を実施しました。

都市部のインフォーマル教育プログラム(UOSPs)を通じて、167人の働く子どもたち(女子98人、男子69人)が公式の学校に復学しました。

バラトプル市では、189人の働く子どもたち(女子115人、男子74人)を発見しました。189人全ての子どもたちに対処計画が準備されました。231人の働く子どもたち(女子111人、男子120人)がバラトプル市のインフォーマル教育プログラムに参加。その後45人の子どもたち(女子30人、男子15人)が家族の元に戻りました。社会福祉士による定期的なフォローアップを受け、彼らへのケアは終了となります。



学校教材を受け取るチトワン県のシタさん。児童労働から解放され、家族は所得創出活動のサポートを受けている。

同様に、ラトナガル市は157人の働く子ども(女の子74人、男の子83人)を発見しました。157人中、20人(女の子12人、男の子8人)が公式な学校に復学しました。50人の子どもたち(女の子23人、男の子27人)が心理カウンセリングのサポートを受け、10人の子どもたち(女の子5人、男の子5人)が所得創出活動のサポートを受けました。

また、ポカラ市では306人の働く子どもたち(女の子161人、男の子145人)を発見し、心理的サポートの他、復学支援、職業訓練などのサポートが提供されました。306人のうち、20人の子どもたち(女の子11人、男の子9人)が所得創出活動の支援を受け、能力向上トレーニングと見習い訓練、社会福祉士からのケアを受けました。

活動3: 児童労働と闘う自治体の能力強化と制度強化

バトプル市、ポカラ市、ラトナガル市は村や関係者に対して様々な能力開発を行いました。1,264人の行政官と子どもの保護の関係者(市レベルの子どもクラブと区レベルの市民フォーラムのメンバーなど)が児童労働と子どもの保護に関する研修を受けました。



児童労働と子どもの保護の関係者に対する研修の様子。



区レベルの委員会メンバーが児童労働と子どもの保護についての研修を受けている様子。

3市の区レベルの「子どもにやさしい地方自治」委員会メンバー代表が、子どもの権利と児童労働に関する1日研修を受けました。1日研修では、基本的な子どもの権利、児童労働の健康面・福祉面での影響、子どもへの投資の重要性、利用可能な社会的サービスの紹介、暴力を受けた時の通報や対処の情報などを学びます。

活動4: 社会的動員と行動変容のための広報活動

ユニセフの支援を受けている市で、保護者、子どもクラブのメンバー、その他の関係者を対象とした児童労働に関する情報とその削減についてのオリエンテーションミーティングが開催されました。市の子どもの保護委員会(MCPCs)と区レベルの子どもにやさしい地方自治委員会が主体的に児童労働問題についての啓発活動を行っており、児童労働反対の決起集会、子どもの健康や福祉に有害な児童労働の影響についての討論会、クイズコンテスト、世界児童労働反対の日の祝賀会などを村や学校などで開催しています。



市レベルの子どもクラブネットワークのメンバーによる子どもの権利と児童労働についてのオリエンテーションミーティングの様子。

児童労働や子どもの保護に関する様々なパンフレットやポスターが配布され、子どもや家庭、村のメンバーなどに10市約15万人に啓発を呼びかけることができました。さらに、児童労働に関する注意喚起が地元のラジオ局から定期的に流されます。



ホテルに掲げられる児童労働ゼロの看板



児童労働反対を訴えるコミュニティ向けのポスター

8市が児童労働ゼロの村(TLOs²)を宣言するために、児童労働や児童労働防止、対処についての様々な啓発ワークショップが母親グループや子どもクラブのメンバーに対して行われました。これらの研修や啓発活動は、公式、非公式な社会構造全てに働きかけることで、村の中で児童労働に反対の立場をとる人々を増やすことを目的としています。



チトワン県ラトナガル市の村で児童労働撲滅を宣言する式典の様子。

バトプル市では、1つの区(第9区)が児童労働ゼロ宣言しました。同様に、ラトナガル市では6つの村(TLOs)が児童労働ゼロを宣言しています。ポカラシでは、5つの村(TLOs)が児童労働ゼロを宣言しました。これまでに8市の46の村(TOLS)が児童労働ゼロを宣言し、市内での社会的なムーブメントを起こしています。

活動5: モニタリング、司法的サポート

対象の10市(ビルガンジ市、ラジビラジ市を除く)で県レベルの子どもの保護の関係者(県児童福祉局(DCWB)や関係省庁の職員、NGOメンバーなど)がそれぞれの子どもの保護プログラムについてのふり返しを行いました。ほとんどの市で、現在2020年の終わりまでに子どもにやさしい市の宣言ができるような包括的な行動計画案が準備されています。

児童労働に対するサポートに加え、本レポート報告期間で、神奈川県ユニセフ協会によるご支援で、国立司法学院(NJA)が判事、検事、司法補佐官のための青少年法における2つの研修マニュアルを開発することができました。さらに、国立司法学院(NJA)は、判事、検事、警官、弁護士、司法補佐官のための青少年法に関する研修教材も開発しました。同様に、検事当局が5日間の子どもや女性被害者の保護についての研修を30人の検事に対して実施し、子どもと女性に最善の対処法を学びました。

4. 使われた金額

重点分野・活動内容	支出 (US\$)
県の児童福祉システムの強化	33,888.23
合計	33,888.23

5. 課題

本事業は4月25日と5月12日の地震により遅れが生じました。地震によってさまざまな活動実施が遅れ、政府はより緊急なニーズと優先順位の高いものに対応を負われました。国内で人道支援の先頭に立つ団体の一つであるユニセフは、緊急援助の最前線にいました。国内の多くの地域が直接的な被害を受けず、通常プログラムは継続することができる状態であったものの、人的資源に置いて制限がありました。結果として、震災後の緊急支援を行った3カ月の間、いくつかの活動は一時的に遅れました。政府主導の事業報告にも遅れが見られました。

² TLOs (Tole Lane Organizations)は「市」の下の「区」のさらに下の行政区分の「村」にあたります。いくつかの「村」が集まって「区」を形成します。

2015年8月～12月の間、ユニセフの活動重点地域であるテライ地区で政治的不安が広がりました。このこととインドとの国境封鎖はユニセフとパートナー団体の2015年9月～12月の通常プログラムの実施に多大な影響を及ぼしました。2016年1月中旬から、徐々に再開しています。

6. 今後の計画

下記の事項は2016年の支援計画における児童労働や子どもの保護に関する重点課題です。

- ・地方自治体の能力強化(より良い計画・実施・自治体のもつ財源のモニタリング)
- ・ネパール政府による児童労働撲滅の戦略に沿った新しい行動計画の策定への支援
- ・パートナーのNGOと地方自治体が児童労働のデータ収集・編集・分析を改善するための情報管理システムの支援

7. ストーリー： ①サラスワティ・グルンの人生を変えたもの



私は両親であるテズ・バハドゥールとサジタ・デヴィ・グルンの最初の子供として生まれました。ネパール南東部にあるスンサリ県のゲラバリ村の生まれです。私は7年生の時に学校を退学し、叔母の住むビラトナガル市のジャムナガチ村へ引っ越さなければならなかったつらい経験を忘れることができません。

私は叔母の家事を手伝いました。洗濯、皿洗い、部屋や家具の掃除、牛の世話などが私の毎日の仕事になりました。私の人生でやりたかったことと真逆なことでした。教育を受けたく、叔母に何度も学校に通いたいと伝えました。しかし、彼女はいつも明確な理由なく拒否し続けました。友達が学校に行っている間に、私は皿洗いをしているということがとてもつらかったです。

1年半が経過し、私の家族がビラトナガル市に引っ越してきたのを機に、家族の元に戻りました。家事は減ったものの、幼い弟の面倒を見るのが私の新しい仕事になったのです。学校に行くことも考えられなくなりました。家族は父の収入のみに頼っており、パンやバターを買うことさえ負担になっている中、両親に学費を出してほしいといえませんでした。その時、私の人生を変えるある NGO との出会いがありました。

地元 NGO の FOHREn はユニセフの協力のもと、児童労働に従事する子どものために都市部のインフォーマル教育プログラムをビラトナガル市で展開していました。私の村にいるインフォーマル教育プログラムの担当者のおかげで、私は再び教育の機会を得ることができたのです。授業料は無料だったので、両親への金銭的な負担はありません。私の教育への情熱、インフォーマル教育プログラムでの学習環境、そして両親への経済的負担がないことは私の勉強するモチベーションになりましたし、実際に一生懸命勉強しました。結果、ビラトナガル市内で展開されているインフォーマル教育プログラム 10 クラス中、トップの成績を収めることが出来ました。

このインフォーマル教育の課程を修了したのち、私はシュリー・ゴグラ校の5年生に編入しました。ネパールで10年生の終わりに受ける中等教育修了資格も2007年に取り、マスコミュニケーションとジャーナリズムを専攻していたシュリー・サトヤナラン高校も2010年に卒業しました。現在はビラトナガル市にあるシュリー・マヘンドラ・モラン大学でマスコミュニケーションの学士を取るよう努力しています。

私の人生を振り返った時、2001年に働く子どもを対象とした子どもクラブのリーダーに選ばれたことを今でも鮮明に思い出します。たくさんの能力向上の活動に参加して、知識やスキル、そして自信を得ることができました。また、インフォーマル教育プログラムでの課外活動にも積極的に参加しました。2005年には13校の8~10年生を対象とした HIV/エイズの啓発イベントの担当もしました。この時に、ファシリテーターとして働く強い意志が芽生えたのです。

2003年に、私は児童労働に従事する子どもを対象とした市レベルの子どもクラブを立ち上げ、リーダーとして働く機会を得ました。児童労働撲滅に貢献し、私のリーダーシップスキルを向上させるのに大変良い機会となりました。2004年にはスリランカのコロポで行われた児童への性的暴力犯罪に対する罰則についてのセミナーに参加し、子どもの権利の根深い問題について理解しました。その年、スウェーデンの法務大臣が我が家を訪れて、両親に私をスリランカのセミナーに参加させたいと依頼にきたことが忘れられません。私の夢を超える出来事でした。子どもが子どもクラブに参加することは、子どもたちの知識やスキル、リーダーシップを向上させ、自信につながるともよい効果があると私は信じています。私の人生に起こったことのように。

NGO の FOHREn の支援、インフォーマル教育に感謝しています。これら機会がなければ、私の人生を変えることはできなかったからです。子どもクラブのリーダーたちのライフスキルを高め、壁新聞、平和と人権、教育の大切さなどを広めることはできなかったでしょう。2015年、ネパールはマグニチュード7.8の大地震に見舞われ、9,000人近い人が命を落とし、22,000人が怪我をしました。その時、私は被災県で心理カウンセリングを提供するという貴重な経験をしました。この経験によって、私は懸命に働き、自分の人生や社会を変えていかなければならないと思うようになったのです。多くの人たちが私の教育や子どもクラブへの情熱を他の方向に向けようとしてきましたが、彼らの負けです。私の情熱、献身、懸命さ、誠実さの勝利でした。

②プシュパの夢は教師になること！



プシュパ・グルンは 10 歳の時、彼女の父親に突然他人の家に連れて行かれ、今からここに住みここで働くようにいわれました。南部ネパール出身の父親は他に 3 人の幼い子どもたちを養わなければならない、金銭的に貧しい生活を強いられており、難しい決断をしなければなりません。

彼女の新しい住居はラトナガル市にあり、プシュパは毎日 5 時起きで掃除、皿洗い、食事の準備などたくさんの家事を始めなければなりません。すべてが終わってはじめて学校に行くことができます。午後帰宅すると、また彼女の家事労働は始まり、ほとんど毎日夜の 11 時までかかります。わずかばかりの月給は 1,400 ルピー

(約 13 ドル)です。勉強道具を買ってもらうため、彼女はこれを両親に渡します。プシュパは学校に通い続け、いつか教師になりたいと思っていました。

幸運にも、プシュパの苦しい生活はユニセフのパートナーであるラトナガル商工会議所の目に留まりました。ユニセフが全国 15 市で展開している「子どもの保護と児童労働削減の共同プログラム(CPLE)」を実施している団体です。プシュパと彼女の両親はカウンセリングを受け、彼女が家に戻ることを認められました。プログラムの一環として、両親に 3,000 ルピー(約 28 ドル)を 1 度だけ提供。そのお金で彼らは人力車を買って、物を運ぶ所得創出活動を始めました。そうすることによって、プシュパが学校に通い続けられるようになりました。



プシュパの父親は人力車によって毎日 900 ルピー(約 9 ドル)を稼げるようになりました。プシュパは家族のもとに帰れてとても喜んでます。彼女は 10 年生の終わりに受ける中等教育修了資格の試験に合格しました。彼女は今ではラトナガル市の高校に通っています。ユニセフのサポートのおかげで教師になる夢の実現に大きな一歩を踏み出すことが出来ました。